

## 第1号議案

### 令和5年度 事業報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

#### ○概 要

わが国では、人口減少、少子高齢化が進展し、高齢者のより一層の活躍が期待される状況にあります。こうした中で、シルバー人材センターは、人生100年時代を見据え地域の高齢者が就業を通じて地域社会に貢献するとともに、高齢者の生きがいや居場所づくりとしてますます重要な役割を担っております。

南あわじ市の特色や実情を踏まえ、これまで以上に積極的な事業運営がシルバー人材センターに求められています。

そのような中、令和5年度の当シルバー人材センターにおける事業実績の指標である事業契約金額は令和4年度に比較して2%強の増、一方会員数においては、微増です。

その概要は会員数においては説明会、集客施設へのパンフ配布等の周知活動を行ったが定年制延長等の定着化、趣向の多様化、会員の高齢化等による退会などがありました。その概要は会員数においては説明会、集客施設へのパンフ配布等の周知活動を行ったが3名の増となりました。又、事業契約金額については新型コロナの影響も収まりつつあり、コロナ前の令和2年度比較し契約金額よりも超え10%強の増額となりました。

今後においても市等公共機関との連携を図り、公共施設管理事業等の受注増加に努めるとともに、介護、観光等の民間事業での就業開拓推進を行い、さらに、少子高齢化時代を見据え、高齢者の家庭や事業所からの就業の受注拡大を目標に取り組んでまいりました。そうした状況が受注件数、事業契約金額の微増に反映されてきていると思われる。また事業運営においても、コロナ禍の影響も収まりつつある中、兵シ協や東播ブロックでの役職員の研修会は通常どおりで開催され情報収集等を行い、財源面では、国及び市の補助金と事務費の中で効率的な事業運営に資するため、事務所経費等運営経費の節減を図り事務事業の効率化に努めてまいりました。

令和5年度事業実績は、公共事業で、1億3千620万4千円（前年度比105.6%）、民間事業（一般企業）で、2億492万6千円（前年度比100.6%）、一般家庭は1千786万9千円（前年度比91.7%）となっております。全体事業契約金額合計で3億5千899万9千円（前年度比101.9%）、前年度比は687万7千円の増額となっております。

就業状況につきましては、受注件数3,658件、前年度比43件の増となっております。就業延べ人員60,459人日、前年度より人日の13人増となっております。

会員数は男性322名、女性272名の計594名（前年度比100.5%）となっております。前年度より3名の増となっております。

なお、派遣事業の実績は受注件数7件、就業実人員16人、就業延べ人員2,451人日、契約金額12,984千円です。契約金額の前年度比は107.4%でした。

厳しい社会環境の変化に対応しながら、会員、役職員が一丸となって就業機会の拡大を推進するとともに組織の活性化に努めてまいりました。

今後、会員の積極的な参画による事業を推進し、会員の増強と就業の場の確保等運営基盤の強化に努め、地域に信頼されるセンターとして健全な運営を目指し、会員・役職員が一丸となって努力していくことが必要となっています。

令和5年度の事業実施について次のとおり報告します。

## ○事業実施状況

### 1 就業に関する情報の収集及び提供 【公1】

- (1) 兵庫県シルバー人材センター協会や月刊シルバー人材センター等の情報誌等による情報を会員、役員の活動に提供しました。
- (2) 会報「シルバーうずしお」を年2回発行し、事業所や会員等に配布し会員就業情報や安全・適正就業についての情報等の提供を行いました。又、シルバー人材センター事業のことを幅広く市民に周知するために初めての試みとして会報『シルバーうずしお』を新聞折込しました。
- (3) センターのサービス内容や活動状況などの情報発信と、会員や市民への情報の伝達方法として会報「シルバーうずしお」やホームページ、チラシの配布、市の広報紙等により広告を行い情報の提供を図りました。

### 2 就業に関する調査・研究 【公1】

- (1) 地域ニーズの把握を行うため、家庭や企業・公共機関へ訪問し、就業に関する調査研究を行いました。
- (2) 事務処理の効率化を図るため、従来から業務関係処理の入力事務の半分以上を兵シ協に委託して、業務改善を推進しました。

### 3 就業相談の実施 【公1】

就業を希望する高齢者の相談を、センター事務所で常時開設し就業相談を行いました。会員が来庁しても相談する場所がないことから理事長室に会員との相談室を又、会議室、研修室とし用途変更し事務効率を向上させました。また、未就業者や就業満了者に対し、希望職種の相談や就業情報の提供を行いました。なお、令和5年度の新規会員説明会には83名の参加がありました。

### 4 就業機会の確保と提供 【公1】

- (1) 市広報「南あわじ」やホームページで事業案内及び、就業機会開拓推進員による家庭や企業、公共機関等を訪問して就業の拡大確保と会員への就業提供に努めました。
- (2) 新規就業機会の拡大を図るため、事業所の訪問や兵シ協主催の剪定講習会・ハウスクリーニング講習会を開催し、就業に必要な技能講習を行い、雇用分野の開拓に努めました。

## 5 安全・適正就業対策の推進 【公1】

(1) 安全の確保と適正就業を推進するため「安全・適正就業委員会」を年3回開催し、そのうち2回目は、現場パトロールの代わりに事故の多い剪定作業・草刈り作業会員対象者に『安全就業研修』を兵シ協より講師を招いて兵庫県下SCの剪定作業中の死亡事故事例を説明していただきました。

事故発生の検証を行い事故原因の確認や熱中症防止のため会員に会報等で対策情報の提供を行いました。

(2) 令和5年度は、12件の傷害事故が発生しました。就業中の傷害保険の事故12件となっております。昨年に比べ2件の増となりました。安全・適正就業委員会で、事故の再発防止対策について協議し、今後このような事故を起こさないように検討されました。転倒事故が60%を超えているようなことから『自分の身は自分で守る』の意識づけを徹底することが協議されました。

そのようなことで、会員へ傷害（転倒）事故防止について書面で注意喚起を行いました。

損害賠償事故は、1件でした。昨年に比べ2件の減となりました。再発防止対策として、不備な箇所の改善指導と安全就業の理解を深めることに努めました。なお、保険対象外の事故が3件発生しました。

(3) 会員の健康管理について「健康管理チェック表」による自己診断調査を行い会員の健康状態の把握と調査結果を委員会、チラシ等で公表し、日常の健康管理及び就業時に注意するよう喚起を促しました。会員に会員状況調査票を通じて健康状態の再点検を行いました。

## 6 会員の増強 【公1】

市広報紙・会報・口コミ・ホームページによる会員募集を行うとともに、窓口で常に入会希望者等との相談に対応し新規会員の増加に努めました。

また、慢性的に会員不足の植木剪定・草刈り作業員の募集を市内の新聞折込をして結果として年度末の会員総数は594名で昨年度と比較して3名の増となりました。なお、年度中の新規入会者は59名、退会会員は56名でした。

## 7 組織体制の充実強化と互助会活動

(1) シルバー事業の円滑な運営を行うため兵シ協の行う『次世代職員育成研修会』に2名参加し、組織の運営や経理事務の執行についての研修を受けました。

今後近い将来、退職職員見込まれるため、より強固な組織運営を継続するために総務2名・業務1名の嘱託職員を採用した。 【法人会計】

(2) 事業運営の要として、理事会、役員会を4回開催しました。 【法人会計】

先進地研修として2月6日『亀岡市シルバー人材センター』を訪問研修した。

(3) シルバー事業の日常業務等の経費の縮減と、職員の効率的な事業運営に努めました。【公1】

(4) 会員独自の企画で会員の互助会活動として、役員会を2回開催しました。

ここ3年間、コロナ禍の影響で親睦研修、懇親会は実施できていませんでしたが親睦旅行は、滋賀県『琵琶湖大津館イングリッシュガーデン&水郷めぐり』の日帰り研修を実施し、又、互助会新年親睦会も実施することができ会員相互の親睦も深まりました。なお、多肉植物の寄せ植え講習会を開催し会員の親睦を図りました。又、ボランティア活動として役職員で古津路の慶野松原海岸清掃を行いました。【他1】

#### 8 普及啓発活動の推進 【公1】

(1) シルバー人材センター事業の内容を広く地域社会に知ってもらうために、新たに会報『シルバーうずしお』を新聞折込し普及啓発に努めた。

(2) 市民にPRを実施しました。パンフレットや会報「シルバーうずしお」の配布、市の広報誌・Q人あわじ等による広告を実施しました。